

下肢の外傷疾患

北アルプス医療センターあづみ病院
整形外科医長

狩野 修治

第11回では特発性膝骨壊死について紹介させていただきます

■特発性膝骨壊死とは

特発性膝骨壊死とは従来、骨壊死という名前のある大腿骨・脛骨の壊死とされていましたが、特発性骨壊死の早期には軟骨下に骨折をみとめ、進行した後の変化としてあらわれます。骨壊死は虚血による骨壊死ではなく、軟骨下骨骨折の結果と報告されています。

はじめからかなり難しい内容となってしましましたが、外来にて骨壊死と診断名をお伝えするとも驚かれる方が多くいらっしゃいます。特発性膝骨壊死は骨壊死と診断名となりますが、みなさんが考えられるような壊死といった状態ではなく、微小な骨折の結果としての関節面の変化となります。

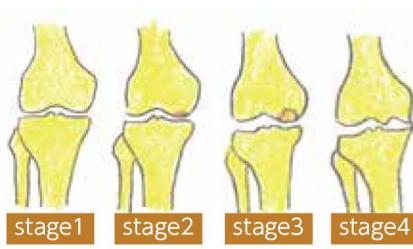
■治療

まずは保存治療を行います。NSAIDsなどの痛み止めを使用しての痛みのコントロールを行います。膝へのヒアルロン酸の注射や四頭筋訓練といった筋力トレーニングを行います。ステージ1の早期には松葉杖を使用して、しばらく体重をかけないようにしていただくこともあります。

保存的に経過をみて症状が軽減せず痛みのコントロールが困難な場合は、手術治療として高位脛骨骨切り術・人工膝関節置換術といった手術をおすすめします。どちらの手術の方法にするかは患者さんの年齢・生活様式・骨質・関節症変化の有無などを考慮して手術の方法を決めることがあります。

■診断

早期の段階では単純X線写真では判断できない場合がおおく、MRIにて診断が可能になります。進行していくと骨壊死部が単純X線写真で診断が可能

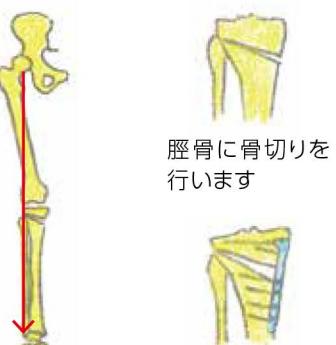


X線ではわかりません



人口膝関節置換術

高位脛骨骨切り術



脛骨に骨切りを行います



角度をつけてプレートで固定します

○脚を治し体重が膝の外側にかかるようになります

術前

術後

体重は膝の内側にかかります